

< 研究の経過と概要 >

わたしたち東山梨地区の「自治的諸活動」部会は、活動を始めて10年目になる。今年度は、東山梨地区の小学校9校の20名の教職員(管理職2名を含む)によって組織され、活動している。

1 研究テーマ

「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」

テーマ設定の理由

社会生活の激しい変化の中で、子どもの生活様式や生活の意識も大きく変わってきた。多くの問題を抱える現代社会において人々は、自己の利害や損得に関わるものには敏感に反応するが、人とのつながり、思いやりや親切の心となると希薄になってきているように感じる。現代社会においては、競争を乗り切り、自分さえよければよいといった風潮があり、他者を省みない傾向がある。そうした中で、その社会的問題や矛盾が集積する学校においても、「学級崩壊」「いじめ」「不登校」など様々な問題が起きている。

学校での「学び」の基本は、学級集団にある。一人ひとりの子どもが集団の一員として互いに認められ、楽しく生活し、学ぶための空間が確保できるような学級集団づくりが求められる。そしてさらに、自分たちの思いによって自治的な活動を創り出し、そこから学びあえる学習集団にまで高めていく必要があると考える。

そこで、本部会では、一人ひとりが認められる学級づくりをめざして、「一人ひとりの子どもが居心地の良い集団づくり」、「人間関係の絆を強め、人とのつきあい方を学んでいく場面づくり」について研究を進めてきた。今年度も、「子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための手だて」について研究していくこととし、本主題を設定した。

2 研究の具体的内容と方法

- (1) 各個人の取り組みや実践を発表し、研究討議する。今年度は部員数が多いため、低学年部会と高学年部会に分かれて実践発表し、研究討議する。

【レポートの例】

エンカウンター、特別活動の充実、学級会の進め方、班長指導、朝の会・帰りの会の進め方、係活動、課題解決の手だてなど、学年の発達段階や各クラスの実態に応じた「自立をめざした学級づくりの手だて」について。

- (2) 講師を招き、「学級づくり」についての研究を深める学習会を行う。
- (3) 授業研究を通して「子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるための手だて」について学習を深める。

3 研究の経過

- | | |
|-------|--------------------------------|
| 5月 8日 | 今年度の役員の決定 |
| 5月15日 | 今年度の研究の方向性の決定 |
| | ・研究テーマ |
| | ・研究方法 |
| | ・年間計画 |
| 6月 5日 | 実践発表Ⅰ |
| 8月 5日 | 夏季学習会 |
| | ・「学級づくりの基本的な考え方/学級づくりの実際とその課題」 |

～子どもどうしの『つながり』を意識した学級づくり～

講師：清水浩喜先生（東桂小学校教諭）

研究授業①の授業案検討

- 8月30日 研究授業①
・学級活動「係の活動内容を見直そう」（4年）
- 10月2日 実践発表Ⅱ
(今後の予定)
- 11月27日 実践発表Ⅲ
1月15日 研究授業②の授業案検討
2月 5日 研究授業②
2月12日 実践発表Ⅳ・今年度のまとめ

4 これまでの成果

- ・各々の実践を発表しあう中で、学級づくりの悩みや抱えている問題などについて情報交換をすることができ、今後の学級づくりの参考となった。
- ・自治的な活動の手立てとして、低学年の当番活動や係活動の取り組み方、中学年の生活班・学習班の使い方、エンカウンターや学級新聞についての取り組み方など具体的な方策について、話し合いを深めることができた。
- ・学習会では講師を招き、子ども理解の大切さを改めて感じる事ができた。「授業づくりは学級づくり」という話には多くの先生方が頷いていた。また、「日々の活動を通して変わる」という当たり前な取り組みの積み上げが大事であると再認識させられた。大変有意義な学習会だった。
- ・研究授業を通して、普段の学校生活の中で、学級や個人での自分たちのがんばりを認めることができた。このことにより、互いを今まで以上に理解するとともに、自信を持ってよりよい学級づくりにつながっていくことを学ぶことができた。

実践発表や研究授業の回数を重ねるごとに、部会としての成果を積み上げつつある。今後も実践発表や学習会、研究授業を通じて、「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」「一人ひとりが認められる学級づくり」ができるよう学習をさらに深めていきたい。

5 共同研究者

菱山小：大澤正史
大藤小：岩下和子・金井京子
大和小：小石澤淳子・大村えり
山梨小：島田直美・若月敬二郎
日下部小：的場泰子・廣瀬剛・中村未来・広瀬真理

後屋敷小：白井明彦・飯島裕明
祝小：高石圭子・赤星美佐
奥野田小：武井麻子・植原恵子・前島国学
三富小：志村克人・斎藤史子

(計 20 名)

一人一人の自立を目指した学級づくり

～係活動を見直そう～

大藤小学校 岩下 和子

1 はじめに

学級活動の目標は「学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活作りに参画し、諸問題を解決しようとする自主的・実践的な態度や健全な生活態度を育てる」とされており、3・4学年の内容としては「学級を単位として協力し合って楽しい学級生活をつくるとともに、日常の生活や学習に意欲的に取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと」とされている。今回は共通事項の（1）学級や学校の生活づくりのイ 学級内の組織作りや仕事の分担処理に関わって、係活動の見直しをすることとした。

本校では4年生から委員会活動やクラブ活動に参加するようになっている。特に委員会活動では、それぞれの委員会で常時活動の分担が決められており、学校全体に関わって活動を行う場面も多くなってきた。仲間と協力し合って責任を果たしていくことは、子どもたちにとってとても大切なことである。それは学級活動においても同様であり、特に係活動に関しては一人ひとりが自分の役割を果たしていくことが求められる。しかし、これまでの係活動は低学年からの延長線上にあり、与えられた仕事をただこなしているだけであった。その為、自分たちで創意工夫をこらした活動を仕組み、自主的に取り組もうとする意欲は見られなかったように思う。

まじめで向上心のある子どもたちが多いクラスであるため、この係活動の見直しを通して、一人一人が自立した集団づくりを目指していきたいと考えた。

2 題材名 「係活動を見直そう」

3 題材について

係活動とは学級の生活の中で必要不可欠な仕事をみんなで分担してだけでなく、学級生活をより主体的に、自主的に豊かなものにしていくために行われる活動であると考え。不可欠ではないがあるより学級が生き生きとしたものになるという仕事を考えさせていきたい。

また、集団生活における自治能力とは「自分の責任と義務を果たし、自分の意志を集団に反映させる能力」と考える。学級の生活を向上させるために問題を明らかにし、自分たちの力で活動の方向性やルールを決定し、それに向かってみんなで協力して問題解決に取り組んでいく学級集団を目指していきたい。

今回の学習では、日々の学級生活の中でどのような係が必要なのから見直し、これまでの活動の問題点を考え、活動を充実させるための具体的な取り組みを考えていく。さらに、決めるだけではなく実際の活動時間を保証し、計画を実行に移すことを大切に考えていきたい。子どもたちは係活動を通して誰かの役に立つ喜びや、学級への所属感・連帯感を深めていくものとする。その気持ちが「よりよい学級」を目指そうと自主的に活動する力に繋がってくると考える。

4 児童の実態

本校は甲州市の北側に位置する小規模校である。全校児童は 80 名で、休み時間や放課後などには学年の枠を超えて遊ぶ姿が見られる。

4 学年は男子 9 名 女子 6 名 計 15 名の学級である。全体的に素直であり、教師だけでなく友だちからの注意も反発せずに聞くことができる児童が多い。昨年度からの持ち上がりのクラスであるが、昨年度は男子の中で些細なことで言い争いになったり、お互いの主張を譲らずけんかにならったりする場面もたくさん見られた。4 年生に進級してからはそういったことがほとんどなくなり、クラスの中もずいぶん落ち着いてきたように感じている。

4 年生の学年目標を『自分で考えて行動しよう』と設定した。さらに、クラスで話し合い「・無駄口はやめよう ・友だちにやさしくしよう ・明るく元気に過ごそう」という 3 つの具体的なめあても決めた。これまでの子どもたちは、周りの状況を自分で判断して行動するという面が弱く、指示されて初めて気がつくことが多かった。そのことを子どもたちも自覚しており、この目標に決定した。

QU テストでも、昨年度に比べるとよい方向へ変化してきている。しかし学級生活不満足群に位置する児童はいなかったものの、侵害行為認知群や否認群に属する児童は数名いた。これらの児童が「自分は認められている」という気持ちを持ち、学校生活に意欲的に取り組んでいけるような指導を行っていききたい。その為に様々な場面で小集団活動を仕組み、一人ひとりが発言したり、活躍したりする場面を増やしていききたい。今回の活動でも一人ひとりが自信をもって係の仕事に取り組んでいけるような活動を仕組みでいききたい。

5 これまでの取り組み

3 年の時には、子どもたちの人間関係をより良いものにするため、またお互いを認め合える関係づくりを行うための取り組みを行ってきた。

『ごめんねコレクション』

自分が「ごめんね」を言われて気持ちがよかったことを紙に書いて掲示していくものである。1 週間ほどの取り組みであったが、多くの子どもたちが花形の紙に書き込んで、掲示してくれた。最終的には全員が 1 枚は書き、全部で 29 枚にもなった。予想していた以上に活動に取り組むことができた。

「ごめんね」をいうときにはどんなことを心がければ良いかを子どもたちに投げかけてみたところ、次の 3 つのことが出された。



○すぐに ○大きな声で ○心を入れて (ていねいに)

どの子どもたちもそれ以前に比べ、「ごめんね」という言葉が出てきたように感じた。

しかし内容を読んでもみると、ほとんどの子どもたちが「間違えてぶつかったときにごめんね

を言ってくれた」「物を落としたときにごめんねと言ってくれた」といった内容がほとんどであった。こちらの意図としては、けんかをしたときや意図的に相手にいやな思いをさせてしまったときに「ごめんね」が言えること、また言われたら相手を許すことができる態度を育てたいと考えていた。それによってクラスの中の人間関係が少しでも成長していくことを期待していたが、思い通りの取り組みには至らなかった。表面的なことには「ごめんね」が言えても、自分の言動を反省して謝るということはなかなか身につけていけない。この取り組みをきっかけに、子どもたちに少しでも意識させられるよう継続した指導を行っていきたい。

『おひさま言葉コレクション』

毎月、児童会の生活目標が各クラスに配られ、それに対する取り組みが行われる。昨年度の2月は「気持ちよい言葉を使おう」という目標で、ふり返しカードも配られた。この取り組みをきっかけに、クラスで「誰かに言われて気持ちのよい言葉」＝「おひさま言葉」について考えてみた。どんな言葉がおひさま言葉だろう、と問うと最初は「ありがとう」「ごめんね」くらいしか出てこなかった。こちらから「こんな言葉はどう？」と提示すると、その後はたくさんのおひさま言葉が出てくるようになった。

☆子どもから出てきた「おひさま言葉」

- ・ありがとう ・ごめんね ・すごいね ・上手だね ・かっこいいね
- ・頑張ったね ・うれしいね ・楽しいね ・頑張って ・良かったね
- ・どういたしまして ・一緒に遊ぼう（〇〇しよう）



児童会のふり返しカードと平行して、「おひさま言葉コレクション」も行った。前回の「ごめんねコレクション」でも内容はともかく、たくさんのおひさま言葉がカードを書こうと意識していたので、第2弾として実施してみた。教室の後ろの黒板に、子どもたちから出されたおひさま言葉を掲示し、その言葉を言ってくれた場面や相手をカードに書いて貼っていった。言葉については、気付いたものを随時増やしていくようにした。今回はカードに書くことにも慣れてきたのか、前回にましてたくさんのおひさま言葉が休み時間や放課後に貼っていく姿が見られた。

この取り組みの最初は、「全然（おひさま言葉を）言ってもらえない。」という児童もいたが、自分が意識して友だちに使っていれば、きっと相手からも言ってもらえることを話した。その成果も少しは見られ、今まで以上に温かい言葉を耳にすることが多くなったように思う。

またその時には、こちらからも「今のはおひさま言葉だね。」「嬉しくなるね。」等、声をかけるようにもした。

また児童会のふり返しカードを利用したの取り組みも行った。班ごとの取り組み状況が分かる表を用意し、班のメンバー全員が◎だった日には表に花丸を貼っていった。

さらに、全部の班に花丸がついた日には大きめのスマイルマークを教室の後ろの壁に貼っていくことにした。毎回少しずつ違った顔のスマイルマークが登場することを伝えると、「次はどんな顔？」と少し興味を示していた。この取り組みにより、子どもたちがお互いにおひさま言葉を使おうという意識が高まってきたように思う。また、使うだけでなく「今のはおひさま言葉だね。」という気づきも生まれ、お互いに認め合える態度が見られるようになってきた。

『3つの誓い』

4年生になり、集団としての力を上げていきたいと考えた。その為には一人ひとりが目標をもって生活することが大切だと考え、「3つの誓い」に取り組んだ。

始めに「どんな自分になりたいのか」について考えた。子どもたちからは「自分のことは自分でできる自分」や「みんなと仲良くする自分」「お手本になれる自分」等といったことが出された。その後自分の現状と、更にもう改善していけば良いのかについてウェビングを行った。「忘れ物が多い — 前の日に時間割をそろえる」や「友だちとけんかをするときがある — 相手の気持ちを考える」等、子どもたちは自分と向き合い、更に成長するための方法をそれぞれ真剣に考えることができた。ウェビングに書かれたことを基にして、自分がレベルアップするために必要だと思われる「3つの誓い」をたて、教室の側面に大きく貼りだした。そして毎日帰りの会で振り返りを行った。これにより、自分の目標を意識して生活できるようになった児童が多く見られたように思う。

この取り組みを通して、子どもたちは自分自身を見つめることができ、これからどうなっていきたいかを、漠然とではあるが考えることができたように思う。やるべきことはやる（忘れ物をしない・自主勉に取り組む・係の仕事を忘れない等）、やっではないことはしない（ろうかをはしらない・人に嫌なことを言わない等）、という気持ちが一人ひとりの中に育ってきた。そのことにより少しずつクラス全体が落ち着き、一つのことにまとまって取り組もうとする姿が見られるようになった。



『運動会の取り組み』

子どもたちのまとまりが見られた一つが運動会である。本校は今年度、体育館の耐震工事の関係で6月に運動会を行った。表現運動は毎年3・4年生が合同で行うことになっている。中学年には少し高度ではあるが「南中ソーラン」に取り組むことになり、まず4年生からソーランリーダーを募集した。運動会の練習が始まる前にリーダーだけを集め、事前練習を行った。当初、リーダー希望の子は15名中13名であったが、1回目の練習の後に2人がやめることとなった。放課後の時間をとることが難しく中休みや昼休みの練習が主となったが、残った子どもたちは文句を言うことなく練習に励んでいた。また踊りがハードであったため、体力面で

もかなり大変であったようだが、4日間で11人は踊りをマスターすることができた。

いよいよ全体での練習が始まると、このリーダーがグループに分かれて3年生やリーダーでない4年の児童に細かい動きを教えていった。休み時間にはみんなを集め、自主練をする姿も多く見られた。リーダーだからと威張ることなく、リーダーでない4年生の児童もリーダーの話に素直に聞き、お互いにその立場を尊重し合って高まっていくことができていた。

3・4年としての連帯感と、自分たちで向上しようという気持ちが大きく育った取り組みであった。本番では保護者からアンコールの声をかけて頂き、子どもたちも大きな達成感を味わうことができたのではないかと思う。

6 題材の目標

- ・学級の生活向上を目指して、身の回りの諸問題に気付き、解決しようとする意欲を育てる。
- ・共感的な人間関係のもと、生活の向上や身の回りの諸問題の解決に向けて活動方針を話し合う。
- ・話し合ったことを元に自分の役割を自覚し、責任を持って活動したり、友だちと協力しながら実践していく態度を身につけたりする。

7 指導計画

時数	主 な 活 動	教師の主な指導
業 前 活 動	○係活動とはどんなものかを考えるとともに、これからどのように取り組んでいったらよいかを考える。 ・付箋紙にそれぞれの考えを書き、同じようなものを仲間分けしていく。	・係の意義を再確認させる。 ・係にはクラスを仲良くさせたり、楽しくさせたりするような内容も考えられることを知らせる。
業 前 活 動	○これまでの係を基本に、必要だと思われる係を考えたり活動内容を見直したりして考える。 ○2学期の係とそのメンバーを決定し、係活動の計画をたてる。	・兄弟にどんな係があるのかを聞いておかせる。 ・どのような活動が考えられるかのヒントを与える。 ・これまでの係の活動内容を見直しながら、自主的な活動ができるようにさせる。 ・希望が重なった場合、これまであまりやったことの

	○決まった係ごとにこれからどのような活動をしていくのかを話し合い、提案に向けての準備をする。	ない係になれるよう配慮する。 ・提案の方法についてアドバイスをする。 ・計画に対するアドバイスをし、活動が分担して行われるよう支援する。
1	○各係が今後の活動について提案し、みんなで意見を出し合う。 友だちからもらったアイデアを今後の活動に生かせるようにする。	・係活動をより良いものにするためのアイデアを出し合えるようにさせる。 ・小集団で相談し、様々な意見が出せるようにする。
事後	○定期的に活動のふり返りと内容の見直しを行う。	・週の計画などを立て、効率的に活動が行われるようにさせる。 ・ふり返りカードなどで自己評価をさせ、次の活動に繋げていけるようにさせる。

8 本時の学習

(1) 日時 2013年8月30日(金) 2時～2時45分

(2) 場所 4年生教室

(3) ねらい

- ・それぞれの提案をもとに、よりよい係活動を行うための話し合いをすることができる。

(4) 展開

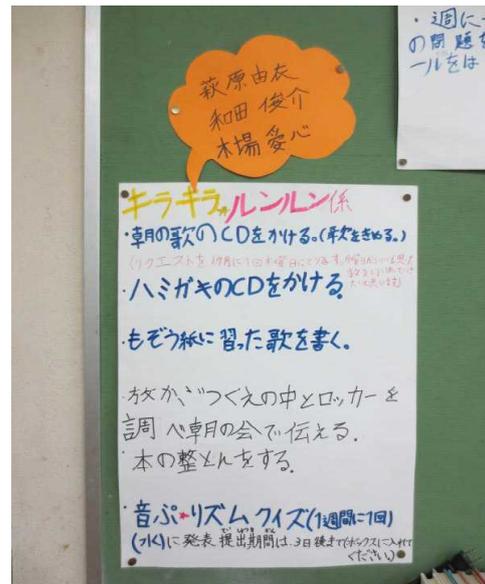
過程	児童の活動	○教師の支援 ◎評価
導入	1. 始めの会 ・始めの言葉 ・議題の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">係の活動内容を考えよう！</div> ・先生の話	

7分	<p>・話し合いのめあての確認</p>	<p>○話し合いの目当てを確認させ、話し合いの内容を明確にさせる。</p>
話し合い 30分	<p>2. 話し合い</p> <p>①係ごとにどのような内容で活動していきたいかを発表する。</p> <p>②それぞれの係に対するアイデアを話し合う。出てきたことを付箋紙に書き、発表してから貼り出す。</p> <p>③係ごとに付箋紙に書かれた意見について話し合い、どのような活動を取り入れるのかを決定していく。</p> <p>④各係で話し合ったことを発表する。</p>	<p>○提案がスムーズに進むよう、事前指導を行っておく。</p> <p>○意見を出しやすくするために、小集団で話し合う時間をとる。</p> <p>◎友だちの提案を聞き、自分の考えを発言することができる。 (小集団の中での発言)</p> <p>○改善点ばかりでなく、良い点についても意見が出せるようにする。</p> <p>○出された意見に対して自分たちの考えが持てるよう支援する。</p> <p>◎話し合いをもとに、これからの係活動について決めることができる。 (観察・発言)</p>
8分	<p>3. ふり返り</p> <p>・話し合いをふり返り、「ふり返りカード」に自己評価、相互評価を記入する。</p> <p>4. 終わりの会</p> <p>・「かがやき」の発表</p> <p>・先生の話</p> <p>・終わりの言葉</p>	<p>○「ふり返りカード」利用して、自己評価・相互評価をさせる。</p> <p>○「かがやき」で、友だちの頑張った姿を認め合えるようにさせる。</p> <p>◎自己の頑張りや友だちの良さを見つけることができる。 (カード)</p>



9 授業後の研究会から

- ・どの係も内容をしっかり考えておくことができた。さらに発表も大きな声でスムーズに、上手に行うことができていた。
- ・発表を聞いている子どもたちの態度も良く、みんなが真剣に話し合いに参加していた。話を聞くことができるクラスは、発表も上手になる。
- ・グループの中で司会を決めておかなかったため、意見がまとまらないところもあった。
- ・改善点がなかなか見つけられないグループもあった。
- ・改善点だけでなく、「賛成」の立場の意見も出てきて良かった。
- ・委員長の進め方がとてもしっかりしていた。全体を見て進行することができていた。
- ・友だちからももらった付箋（意見）について話し合う際は、たくさん子どもたちが目を輝かせて、その意見をどうするかについて話し合う姿が見られた。



10 成果と課題

今回の話し合いに先立ち、「係ってどんなもの？」と投げかけて思ったことを付箋に書かせた。それを分類していくと、「なくてはならないもの」「大変な時もあるけどがんばるもの」「協力」「責任」「自分たちのため」等が出てきた。そこで「これまでの係に足りないものは？」と問うたところ「楽しさ」という回答が返ってきた。そのことを頭に入れながら、今回の話し合いを行った。

それぞれの係が自分たちの活動内容を考える際にも、今までにはなかったものを取り入れてきた。例えば、窓の開け閉めや生き物の世話をする「環境係」は、環境クイズを行うことを考えた。黒板を消すだけだった「黒板消し係」は、背面黒板を整理したりディスプレイすることを考えた。これらのように今回の学習から、係活動が必要最低限の活動で終わるのではなく、自分たちも楽しみながら行っていこうという意識が出てきたのではないかと考える。

またお互いの考えを交流する中で、更に良いアイデアをもらえた班はそれを採用し、活動内容に朱書きで付け足しをした。何でもかんでも言われたことを付け足したわけではなく、実現が難しいことや無理な内容については、自分たちで取捨選択をすることができた。活動に対する「賛成」の意見も多く、お互いに認められたという感情や、活動に対する意欲も高まったのではないかと感じている。実際に2学期の係活動は、これまでより自主的に進められている。時々振り返りを行っているが、ほとんどの子どもたちが「よくできた」と自己評価している。

しかし3人1組で行っているため、中には言われたことを言われたときだけしかできない児童も若干いる。子どもたちがお互いに声を掛け合って進めてはいるが、こういった子どもが自主的に活動に参加することが今後の課題の一つである。

また、決めたことはしっかりできているが、活動しながら更に改善していく・新しい活動を考えて始める等といったことは見られていない。自分たちで気づき、さらにより良いものにするためのアイデアを出し合っていくことも今後の課題であると考え。子どもたちが常に自分たち活動を振り返り、さらにこうしていきたい、こうなりたいと目標を高めていってくれるよう導いていきたい。そうなることにより、一人一人が自立した学級へと繋がっていくのではないかと考える。